

# 1. 計画策定の趣旨

## (1) 計画策定の趣旨

人と人との交流を促進する観光は、旅行業や宿泊業、運輸業に留まらず、飲食業や土産物販売を含む小売業、農林水産業など、様々な産業へ経済波及効果のある裾野の広い総合産業です。そのため、観光の振興は、こうした広範囲の産業を元気にするとともに、雇用機会の創出など、地域経済を力強いものにする「地域の原動力」となります。

本市は、海や川、山などの豊かな自然環境、豊富な一次産品を用いた食、温泉、歴史・文化など、多様な地域資源を有しており、平成 19 年に観光振興計画を策定し、こうした「石狩の宝」を発見して磨き、観光のまちづくりで地域を潤す「石狩の宝発掘宣言」という基本理念のもと、観光振興を図ってきました。

平成 29 年には第2次観光振興計画を策定し、「市民も地域も産業も生き生き！笑顔がつくる観光地「石狩市」というキャッチフレーズのもと、産業振興関連計画（農業振興計画、漁業振興計画、地場企業等活性化計画）と連携しながら観光施策の展開に努めてきました。

この間、本市では、北部エリアの拠点となる道の駅石狩「あいろーど厚田」（以下「道の駅石狩」という。）が開業し多くの利用者で賑わうなか、北前船の寄港地を構成自治体とする日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に本市が追加認定されたほか、市民有志が復元作業を進めてきた、濃昼山道・増毛山道が北海道遺産に認定されるなど、厚田区、浜益区の観光資源が注目されるようになりました。

また、石狩湾新港地域に宿泊施設や大型商業施設が開業し、これまで工業地域として発展してきたエリアに“観光”の要素が加わったことで、人流の変化も起きています。

そのほか、本市では令和2年12月に「2050年ゼロカーボンシティ」宣言を行い、社会経済活動と両立した脱炭素への取り組みが始まっています。

こうした中、少子高齢化のさらなる進行や新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による行動変容などの社会情勢の変化、気候変動をはじめとする環境問題への対応などに加え、個人の価値観やライフスタイルの多様化に伴う観光ニーズ・旅行形態の変化など、観光を取り巻く情勢は大きく変化しています。

観光は、このような状況においても、地域経済のけん引役として様々な産業への波及効果が期待できると同時に、自らの地域に対する誇りと愛着を育むものであり、今後も「観光」の果たす役割は大きなものがあります。

本計画は、これからの時代を見据え、前計画で取り組んできた「観光を切り口にした石狩らしいまちづくり」を、さらに一歩進めるよう今後の観光振興に関する施策の方向性を示すものであります。

